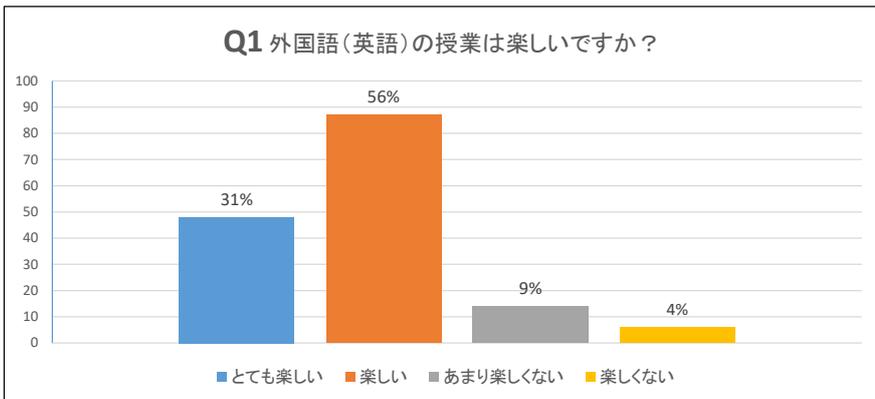
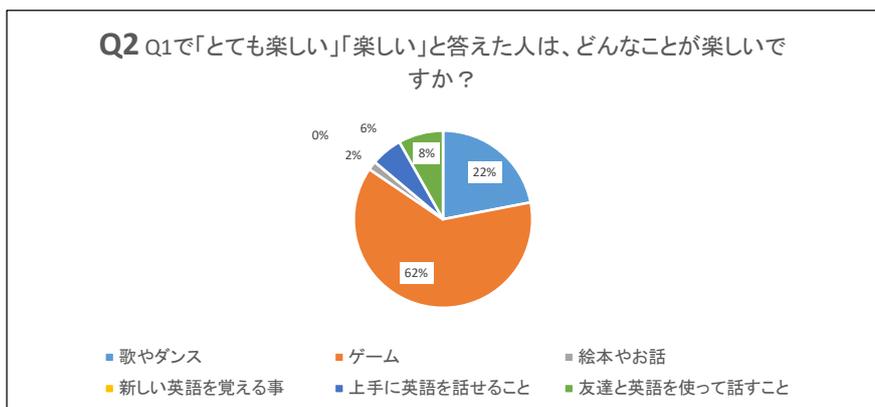


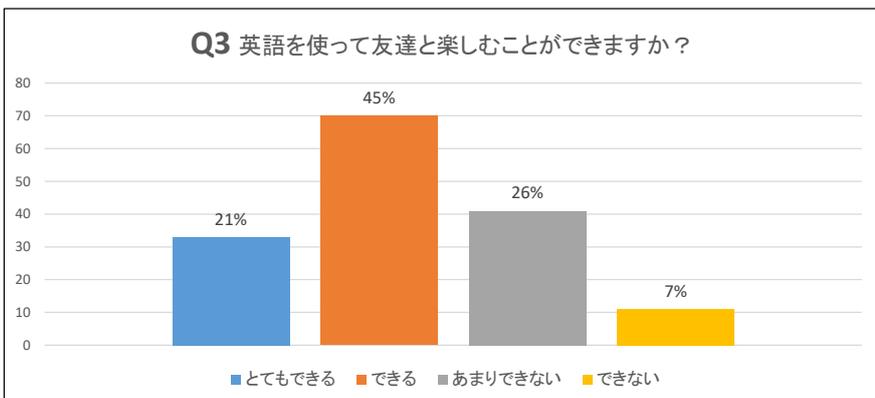
令和4年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(小川小学校)



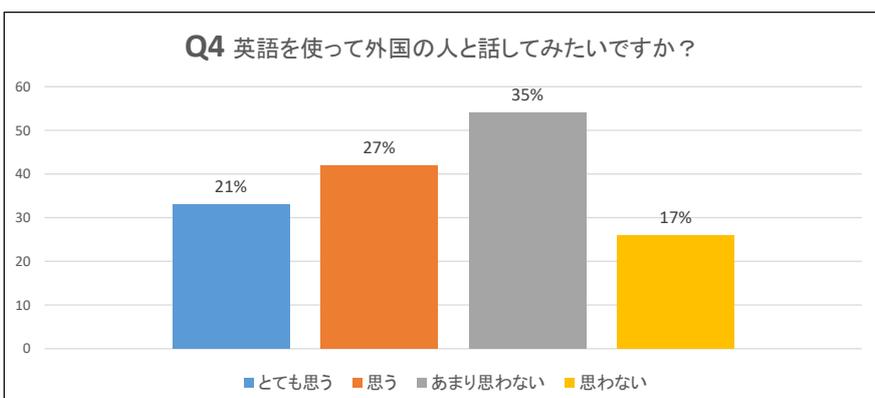
【Q1について】
アンケートの結果、授業が「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童の割合が87%と高い数値を示している。児童が意欲的に外国語(英語)の授業に参加し、楽しんでいると考えられる。



【Q2について】
児童らが「楽しい」と感じる活動の上位は、「ゲーム」(62%)、「歌やダンス」(22%)であることが分かった。また、英語を使った表現「友達と英語を使って話すこと」「上手に英語を話せること」に関して、14%の児童が楽しいと答えているので、このような児童の割合がさらに増えるよう工夫して活動に取り組んでいく必要を感じる。



【Q3について】
「とてもできる」「できる」と答えた児童の割合は66%と全体の2/3を占めた反面、全体の1/3の児童が「あまりできない」「できない」と感じている。少しでも苦手意識が少なくなるよう、児童一人一人が、英語で伝わる喜びや自信をもって英語を使う活動に参加できるような工夫を図っていく。



【Q4について】
「とても思う」「思う」と答えた児童の割合は48%と約半数にとどまった。ALTの存在を生かして、今後も、英語を使うよさや必要性、使うことによる達成感などを感じることができるような活動に取り組み、更なる意欲の高まりを目指していく。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
○低学年の頃から、ALTの発音にふれ、楽しんで英語を使って活動できることで、子供たちが英語嫌いや苦手意識を持たなくてすむのではないかと。
○学習したことをもとに、外国語(英語)のみならず、社会科など他教科とも関連させ、国際理解教育にもつなげていけるよう手立てを講じていくと、さらに効果的だと思う。

【考察・今後の展望等】
学習した外国語(英語)を使ってコミュニケーションを図る場面や発表する機会を計画的に設定し、充実させていく必要がある。担任とALTがさらに連携し、児童らが外国語(英語)を「使ってみたい」「コミュニケーションを図ってみたい」と思えるような授業づくりを目指していく。